

令和 2 年度入学者選抜学力検査問題

(後期日程)

総 合 問 題

〔文系後期一括入試〕

(注 意)

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は本文 10 ページです。答案用紙は 3 枚あります。
- 3 答えはすべて答案用紙の指定のところに記入しなさい。
- 4 アルファベット文字や数字は、1 マスに 1 字で記入しなさい。
- 5 マス目のある下書き用紙の様式は 20 字×30 行(600 字)です。
答案用紙の 1 行あたり字数や総字数の指定とは異なる場合があるので、注意して利用してください。
- 6 問題紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

I 以下の社説を読み、下の問いに答えなさい。

安倍政権が今国会の目玉としていた働き方改革関連法が成立した。

過労死の根絶を求める声が高まるなど、雇用の状況や人々の価値観が大きく変わる中での制度改革だ。時代に合わせて、多様な働き方を実現していかなければならない。

関連法は三つの柱から成り立っている。残業時間規制、同一労働同一賃金の実現、高度プロフェッショナル制度(高プロ)の導入である。

残業時間については労働基準法が制定されて初めて上限規制が罰則付きで定められた。「原則月 45 時間かつ年 360 時間」「繁忙期などは月 100 時間未満」という内容だ。

過労死ラインは月 80 時間とされており、規制の甘さも指摘されるが、現行法では労使協定を結べば青天井で残業が認められている。長時間労働が疑われる会社に関する厚生労働省の調査では、月 80 時間を超える残業が確認された会社は 2 割に上り、200 時間を超える会社もある。

甘いとはいえ残業時間の上限を法律で明記した意義は大きい。

日本の非正規社員の賃金は正社員の 6 割程度にとどめられており、欧州各国の 8 割程度に比べて著しく低い。このため「同一労働同一賃金」を導入し、非正規社員の賃上げなど処遇改善を図ることになった。

具体的な内容は厚労省が作成する指針に基づいて労使交渉で決められる。若年層の低賃金は結婚や出産を控える原因にもなっている。少子化対策の面からも非正規社員の賃上げには期待が大きい。抜け道を許さないための厳しい指針が必要だ。

これらの改革を着実に実行するには、公的機関による監視や指導が不可欠だ。2015 年に東京と大阪の労働局に「過重労働撲滅特別対策班(かとか)」が新設された。検察庁へ送検する権限を持つ特別司法警察職員だが、現在は計 15 人しかいない。これでは全国の会社を目を光らせることなどできないだろう。

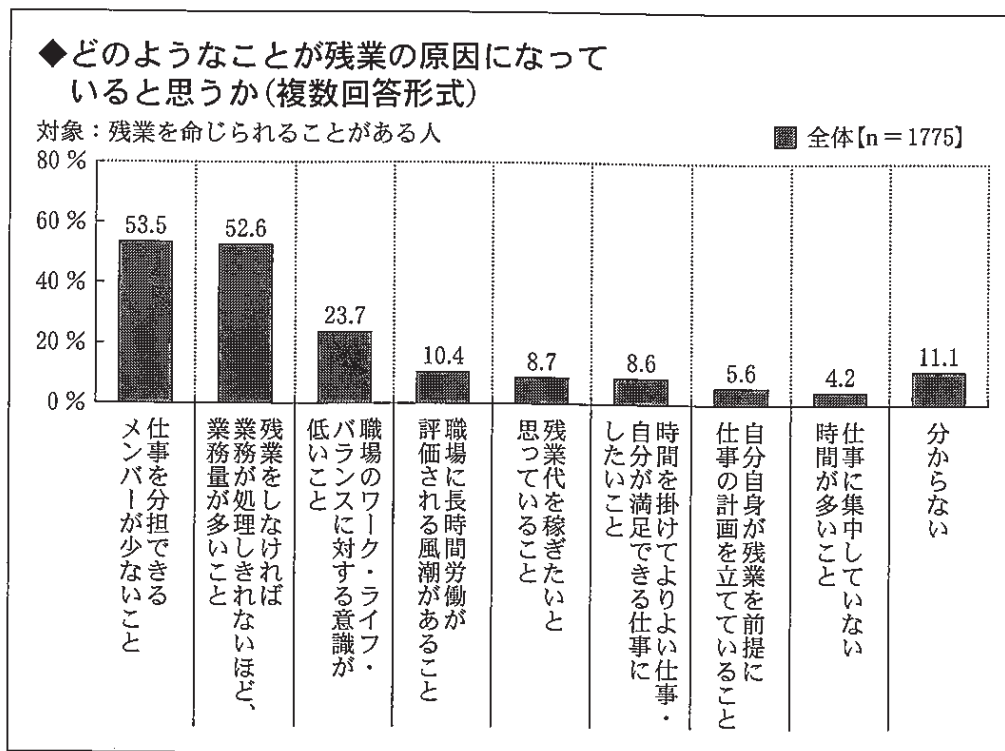
労働基準監督署による指導だけでなく、労働組合のチェック機能の向上、会社の取り組みに関する情報公開の徹底などが求められる。

最も賛否が分かれたのは高プロの導入だ。年収 1,075 万円以上の専門職を残業規制から外し、成果に応じた賃金とする制度である。本人が希望すれば対象から外れることになったが、上司との力関係で、高プロ適用を拒否できる人がどれほどいるのか疑問が残る。

出典：毎日新聞社説(2018 年 6 月 30 日 東京朝刊) 一部改変の上引用

問 この社説が示すように、過労死を招くような長時間労働を防ぐため、働き方改革関連法が2018年7月に公布され、罰則付きの残業時間の上限規制や年次有給休暇の取得の義務化(5日以上)などが、2019年4月から段階的に施行されています。あなたは、会社等において、過労死を招くような長時間労働を防ぐために、どのような具体的な取り組みが必要だと思いますか。資料1と資料2の残業時間と年次有給休暇に関するアンケート調査の結果を参考にしながら、あなたの考えを日本語で800字以内で述べなさい。

資料1 (n = 1775 の n は回答者数)

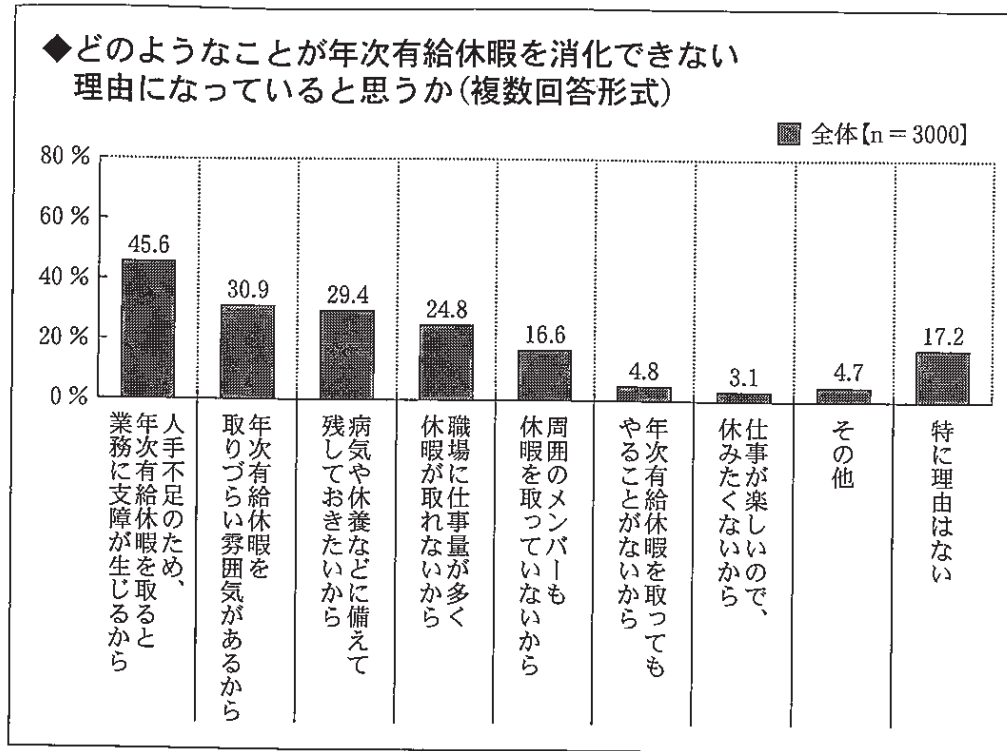


出典：日本労働組合総連合会「労働時間に関する調査」8頁、一部改変の上引用

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20150116.pdf>

(2019年8月20日閲覧)

資料2 (n = 3000 の n は回答者数)



出典：日本労働組合総連合会「労働時間に関する調査」12 頁，一部改変の上引用

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20150116.pdf>

(2019 年 8 月 20 日閲覧)

Ⅱ 以下の文章を読み、下の問いに答えなさい。

ニューカマー⁽¹⁾の子どもたちのほとんどは、母語が日本語ではない。日本語を唯一の授業言語として学習活動が展開される日本の学校との言語的なギャップは明白である。このギャップをどう捉えてどう対処するのかが、ニューカマーの教育をめぐる最大の課題であり、争点であると言ってもよい。

日本の学校が選択している方略は、日本語を母語としない子どもに日本語を習得させることによって、このギャップを解消することである。「日本語がわからない」と授業は理解できない」という認識に基づき、「日本人と同様の教育」を実現するため、当該の子ども教育は、「日本語習得」と「日本語教育／指導」に焦点化される。その際、子どもの母語は否定されないまでも、積極的には援用されない状態に置かれるのが一般的である。子どもたちは、母語を使用する機会がほとんどない環境の中で、日本語のみを媒介とした学校生活を送り、その中で日本語を習得することを期待される。

母語を用いない日本語のみによるこのような教育は、「日本語を母語としない」子どもにいくつかの深刻な問題をもたらすことになりかねない。

子どもたちが「日本語の学習」に精を出さなくてはならない期間は、日本語による授業＝教科の学習に十分参加できないことを意味するが、それは、「日本語がわからないから授業がわからない」ゆえに、仕方のないこととみなされてしまいがちである。授業がわかるようになるには、子どもがさらに「ガンバッテ」、日本語の習得に努めなくてはならない。「ボール」は子どもたちの「コート」にあり、かれ・彼女らがそれをしっかりと打ち返すことを期待されているのである。

では、子どもたちの日本語習得は、教科学習の「断絶」状態が重大な意味を持たずにすむほどの期間に十分達成されうるものであろうか。結論からいうならば、子どもといえども第二言語である日本語の習得は生易しいものではない。たしかに、小学生の場合などは、日本人に囲まれ日本語だけが意思疎通の言語手段という環境のなかでは、日常会話は比較的早い時期に習得することができる。日本の学校に通いはじめて半年ないし一年もすれば、日本人の級友や教師との会話による意思の疎通も相当程度はかれるようになる。しかし、日常会話の習得が必ずしも授業理解へと

直結するとはかぎらない。ある中国帰国生徒は自らの経験を次のように語っている。「日本に来てすごく困ったことは言葉で、でも言葉は友達と話している〔間に〕自然に覚えられますけど、授業での言葉は全く違うものでした。ふだん友達との間でしゃべる言葉と全然違って、全く外国語に聞こえました」。この生徒の体験は、授業内容を理解するには日常会話とは質的に異なる言語能力が求められることを示している。つまり、具体的な事物や事象について語られる日常会話と比べて、より抽象的な思考を可能とする言語＝学習思考言語の運用能力である。

授業理解を可能にするこのような言語能力の習得は、日本語を母語とする者にとっても容易ではなく、長期にわたる継続的で意図的な学習を必要とする。ましてや、第二言語としての日本語において、学習に必要な言語能力を獲得するには、子ども自身の相当な努力と教員などまわりの長期かつ適切な支援が必要なことは言うまでもない。第二言語習得研究によると、第二言語におけるこのような言語能力を習得するには、すくなくとも5～7年あるいはそれ以上の年月を必要とするといわれている。

このように、授業理解を可能にする日本語の習得がある程度長期にわたることを鑑みるならば、ニューカマーの子どもたちの教育達成が不十分なまま推移することは免れないことになるが、先述のように、日本語のみが授業理解に有効な言語であるとのモノリンガリズムに立つならば、教育達成上の「問題の所在」は、当該の子どもものの日本語力の不十分さに求められるのである。

日本語を唯一の「学校言語」とするモノリンガリズムはまた、日本語を母語としない子どもから母語を奪う危険性を有している。とくに、母語の確立過程にある年少者が、母語以外の言語のみによる学習環境の下におかれると、日常生活レベルの第二言語習得の過程が往々にして母語喪失の過程を意味することになりかねないのである。

子どもの母語喪失は家庭内のコミュニケーション不全という深刻な問題をもたらすが、同時に、学習のために必要な言語を奪う危険性をも^{はら}んでいる。つまり、母語の喪失という「代償」にもかかわらず、第二言語である日本語の習得が不十分なレベルに止まることが起こる。すでに述べたように、第二言語による学習思考言語の運用能力の獲得には長期におよぶ支援と学習が必要になるが、現行の日本語教育は

このような認識に基づいて実施されているとはいえない状況にある。日本の学校に通うニューカマーの子どもたちの多くが、こうした言語環境にあることを考えれば、かれ・彼女らが母語・日本語双方において、教科の学習に必要な言語能力を獲得できない状態に置かれる危険性はきわめて高いといわざるをえない。

母語がある程度確立した年齢の生徒の場合では、母語を喪失する危険性は低くなるものの、母語を肯定的・積極的に使用することが困難なモノリンガリズムのなかでは、たとえば、自分の親に対して、級友や教師の前では母語で話しかけないようにくぎをさすなど、意識的に母語の使用を避けることが起きる。「ことばは自分自身である」といわれるように、それはコミュニケーションの手段に止まらず、人格そのものでもあり、アイデンティティの形成において重要な役割をになっている。その意味で、自らの「ことば」や文化に「引け目」や「負い目」を感じさせる日本語モノリンガリズムに基づく教育は、意味のある学習からの排除とともに、日本語を母語としない子どもにとって、肯定的で安定的なアイデンティティ形成を困難なものにすると考えられる。

出典：宮島喬・太田晴雄『外国人の子どもと日本の教育—不就学問題と多文化共生の課題』東京大学出版会 2005 年、60 頁から 63 頁までを一部改変の上、引用

注

- (1) ニューカマー：戦後、特に 1980 年代以降に増えた定住外国人のこと。
1990 年に施行された出入国管理及び難民認定法の改正以降急増した南米からの日系人を指す場合も多い。

問 筆者は下線部において「いくつかの深刻な問題をもたらすことになりかねない」と述べていますが、この「深刻な問題」として、どのようなことが挙げられているでしょうか。日本語で 400 字以内で述べなさい。

Ⅲ 以下の文章を読み、下の問いに答えなさい。



Twenty-year-old Ariana Miyamoto (in the center above) was delighted to be crowned Miss Universe Japan in 2015. Ariana was born in Japan, has lived there all her life, and Japanese is her first language, but her success was not universally welcomed in Japan. For many Japanese people her skin color and appearance mean she is not an appropriate person to represent Japan at the Miss Universe contest. Ariana's mother is Japanese, while her black father is from Arkansas in the USA. In Japan this makes her 'hafu' or 'half' rather than 'fully' Japanese. Some Twitter users openly asked, 'Is it OK to select a hafu as Miss Japan?' Another said, 'It makes me uncomfortable to think she is representing Japan.' Ariana also says she is more likely to be congratulated in the streets by non-Japanese tourists than by local Japanese people.

Derogatory⁽¹⁾ terms for people of mixed race are not unusual and have been used in many other cultures. Until the 1970s in Britain, for example, the term 'half-caste' was widely used with reference to the children of white and black parents. Half-caste was also commonly used in British colonies around the world. In Australia the term was used to describe children born to white colonists and

indigenous⁽²⁾ Aboriginals⁽³⁾. And although these instances may appear to be simply descriptive, they were associated with ideas of racial purity ('caste' is derived from the Latin word *castus*, meaning 'pure') and the weakening of the supposedly superior white race through racial mixing. Thus, the concept of half-caste was used in negative ways and mixed-race children were stigmatized⁽⁴⁾ and treated as outsiders.

Ariana Miyamoto recounts⁽⁵⁾ how her best friend at school - also hafu - committed suicide, in part, she says, because his 'foreign' appearance meant that he was always considered an outsider in his own country: 'We used to talk a lot about how hard it was to be hafu. He wanted to talk about why we are excluded from others three days before he died. He used to say it was very difficult for him to live.' Despite this, Miyamoto argues that, in the relatively homogeneous⁽⁶⁾ Japanese society, the concept of hafu has allowed her to better understand and embrace her own identity: 'There is no word like hafu outside Japan, but I think we need it here. In order for us mixed kids to live in Japan, it is indispensable and I value it.' We also have to remember that she did win the Japanese contest, which suggests that the stigma associated with hafu status may be starting to break down.

Miyamoto's experience illustrates something of the complexity of ideas of race, ethnicity, nationality and identity that circulate within and across societies. Her mixed-race parentage is perceived as a 'problem', but is 'Japanese' a racial category, an ethnic group or simply a type of nationality? What are the differences between 'race', 'ethnicity' and 'nationality'? Hafu seems to refer to a small group of mixed-race people within a homogeneous majority population, but is this true? Given the long history of cross-cultural contact and the continuous mixing of peoples, is it more accurate to say that most of us are, in some way, 'hafu', while racially pure groups are in fact the tiny minority?

出典 : Anthony Giddens and Philip W. Sutton, 2017, *Sociology*, 8th ed., Polity Press, 661 頁から 662 頁までを一部改変の上, 引用

注

derogatory⁽¹⁾ : 傷つけるような, 軽蔑的な

indigenous⁽²⁾ : 土着の, 固有で, 生来の

Aboriginals⁽³⁾ : オーストラリア先住民

stigmatize⁽⁴⁾ : 汚名を着せる, 非難する

recount⁽⁵⁾ : 詳しく話す, 物語る

homogeneous⁽⁶⁾ : 同種の, 等質的な

問 1 Miyamoto さんが日本において“hafu”として経験したことを記述し, そうしたことが生じる理由について日本語で 400 字以内で述べなさい。

問 2 著者はこの文章の最後の部分で, 下線部 Hafu seems to refer to a small group of mixed-race people within a homogeneous majority population, but is this true? と問うています。著者のこの問いに対する考えをふまえて, 「日本人」について考察し, あなたの考えを日本語で 200 字以内で述べなさい。

出典に関する補遺

令和２年度金沢大学個別学力検査一般入試（後期日程）「総合問題」の入学試験問題で引用した文章の出典は次のとおりです。

【設問Ⅲ（出典）】

Reprinted from "Sociology, 8th Edition" by ANTHONY GIDDENS & PHILIP W. SUTTON, Polity. Copyright ©2017 Polity. All Rights Reserved.